

Φ 過去の優勝校 Φ

年	月	男子	女子	年	月	男子	女子
25	11	春日部		60	9	春日部東	〃
26	11	〃	越ヶ谷	61	9	〃	久喜
27	11	〃	〃	62	9	〃	春日部女子
28	11	〃	春日部女子	63	9	八潮	久喜
29	11	〃	〃	元	9	三郷	越谷西
30	11	〃	越ヶ谷	2	9	春日部東	春日部女子
31	11	〃	〃	3	9	〃	春日部東
34	10	〃	〃	4	9	〃	八潮
35	11	〃	〃	5	9	〃	久喜
45	9	〃	久喜	6	9	〃	〃
46	9	〃	〃	7	9	〃	〃
47	9	〃	春日部女子	8	9	越谷南	〃
48	9	〃	岩槻商業	9	9	〃	〃
49	9	〃	〃	10	9	〃	〃
50	9	〃	〃	11	9	春日部東	〃
51	9	〃	久喜	12	9	〃	〃
52	9	〃	〃	13	9	〃	〃
53	9	〃	春日部女子	14	9	〃	〃
54	9	〃	久喜	15	9	〃	〃
55	9	不動岡	草加南	16	9	〃	〃
56	9	草加南	〃	17	9	〃	〃
57	9	三郷	久喜	18	9	〃	〃
58	9	〃	三郷	19	9	〃	〃
59	9	〃	〃	20			

この歴代優勝高校を見ていただくだけで「伝統」というものを感じずにはいられない。春高は過去最多19回の総合優勝。

18回で春日部東高校が続くが、今年は越谷西高校が初優勝を飾った。どの種目にも2名以上決勝進出していて、しばらくは目が話せない強豪になりそうだ。

今年の新人大会は各地区とも興味深い結果が生まれた。

やはり総合力のトップは全県では松山高校。北部大会で二位に100点の差をつけて別格の強さ。松山が北部へ移った西部では、川越高校が総合を制した。そして南部大会では浦和高校が埼玉栄を10点差で抑えた。

競技人口減少が止まらず、危惧されている昨今。しかし、100年を超える旧制中学陸上部が、堅実な頑張り新たな波を作ろうとしているようだ。もちろん春高はずっと東部のリーダー格を守ってきた。

短距離の新たなエースには1年生の吉澤が名乗りをあげた。16歳の少年はまだまだ身体の線は細いようだが、大塚さんのスプリント道場で確実に成長してきた。200m 22秒台を確実に走れる実力をつけた。



ゼッケン91の責任は重いだらうが、新主将がんばれ！



昨年は幅・三段王国だったが、今年からは平井一人で奮闘。  
両種目で得点を果たした。



高石も110mH, 400mHでポイントゲッターだ。  
この直後、転倒するハプニングに見舞われたが、きっちりゴールして得点した。僅差の総合  
だったので惜まれる！しかし、果敢にもマイルでも気合の好走をみせた！



今年の春高は中長距離が気を吐いた。総合得点の半分をたたき出した。



1年生の野村は1500m4位、800m2位。直後のマイルでも気合を見せた。



5000mで入賞した大久保は、後日の鴻巣記録会で1年生ながら15分台突入をみせた。春高初の14分台を目指すランナーになってほしい。



この大会、唯一の優勝を飾ったやり投げの黒須も、幟をもって応援する。黒須は腰が悪く、なかなか思い切った投擲ができないようだが、常に記録は安定している。来期は60m越えをしてインターハイにつなげたい。

石田の持つ春高記録も、そろそろ更新したい。

マイル前は東部でもインターハイでも、独特の盛り上がり、緊張感につつまれる。  
1走は高山が勤める。



2走者へ。先ほどの400mHで故障した高石が受け取った。







さすがに痛みがあるのか・・・苦戦。

3走者は先ほど800m決勝を終えたばかりの野村。

上位グループ4チームと  
セカンドグループ4チームにはっきりと分かれた。

何としても5着4点を守りたい。



あとはアンカーの吉澤に託す。  
3走、4走とも春高は一年生が勤める。

吉澤はラスト100mまで溜めて、  
200mスプリンターのスピードを活かして一気に集団を飛び出した。



セカンドグループの先頭でゴール。4点を獲得した。

総合1位 越谷西 100点  
2位 春日部東 91点  
3位 春日部 89点

選手による大会前予想は94点。これでチームの長所短所が明確になった。  
学習するであろう春高生。それを踏まえての冬季練習。 来春の東部が楽しみだ。

37回 のもと歯科